

## 事故防止のための入浴介助マニュアル

<入浴による危険性>

・転倒 ・転倒 ・血圧変動 ・疲労 ・のぼせ ・湯冷め ・火傷 ・溺れる

●一般浴

<準備する物>

着替え、バスタオル、タオル、アカスリ、ガーゼなど洗うもの、石鹸、シャンプー、リンス、シャンプーハット、  
ブラシ、  
ドライヤー、シャワーチェア、マット、温度計、化粧品(クリームなど)

手順・確認事項	留意事項
着替えを準備	本人の好みをきちんと聞く。
	季節感、色の組み合わせを考慮する。
	暑さ、寒さに応じたもの。 (マヒがある場合、程度によっては前開きのもの)
浴室の環境整備	準備する物が浴室内に揃っているか。
	室温、湯温の確認。(浴室、脱衣所の温度差がないようにする。 湯温の適温は38℃～41℃程度)
身体状況のチェック	前日および夜間の身体状況の把握。
	顔色、表情その他全身状態の変化の確認。(必要があれば検温、血圧測定し、医療との連携を取る)
	食事摂取、服薬の確認。(食事の直後や空腹時、服薬直後は避ける)
	入浴の前後に水分の補給をする。
	排泄確認の上、入浴する前にトイレ誘導をする。
	入浴後はクリームなどで保湿し皮膚を守る。(湿疹・床ずれの発生を確認)化粧品類は本人の希望を聞く。 湯冷めしないように衣類や布団など掛け物に注意する。

●機械浴

<準備する物>

ストレッチャー(敷くタオルケット、掛け物)、着替え、バスタオル、タオル、アカスリ、ガーゼなど洗うもの、石鹸、  
シャンプー、リンス、シャンプーハット、ブラシ、ドライヤー、化粧品

手順・確認事項	留意事項
入浴することを理解してもらう	入浴することを伝える。本人の意思をきちんと聞く。
脱衣所へ移動する	ストレッチャーへの移動時、頭や手足をぶつけない。
	ストレッチャーでの移動は進行方向へ足を向ける。
	室温、湯温の確認。(浴室、脱衣所の温度差がないようにする)
衣類を脱ぐ	いきなり脱がし始めず、脱ぐことを説明する。
	自分でできるところはしていただく。
	マヒがある場合は健側から脱ぐ。
	脱いだらすぐ体をタオルで覆う。
	脱いだ衣類は床に置いたりせず、すぐランドリーボックスに入れるなど片付ける。ポケットの中などを確認。
機械浴用ストレッチャーへ移動	ストレッチャーがぬれていればきちんと拭く。
	ストレッチャーのストッパーがかかっているか確認。
	移動する前に「動きますよ」など声かけをする。 安全ベルトが濡れて冷たいようならタオルをあてる。
身体を洗う	声をかけて手足(健側)にシャワーをかけ、湯加減を聴く。 (このまま洗うか、湯につかるかを聞く)
衣類を着る	おむつをつける、パンツをはくなど早く陰部を隠す。 マヒ側の手などに十分注意。
移動用ストレッチャーに移る	ストレッチャーのストッパーがかかっているか確認。
髪を乾かす	ドライヤーを近づけすぎたり、温度が高くないように注意。 人によってはマッサージをする。
化粧品(クリームなど)をつける	入浴後はクリームなどで保湿し皮膚を守る。(湿疹・床ずれの発生を確認)化粧品類は本人の希望を聞く。
居室に戻る	ストレッチャーへの移動時、頭や手足をぶつけない。 湯冷めしないように衣類や布団など掛け物に注意する。
水分補給する	飲み物は数種類用意して選んでもらうとよい。全身状態の観察。